

には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

事業所名	ぶどうの家
日付	平成18年3月24日
	特定非営利活動法人
評価機関名	ライフサポート
評価調査員	在宅介護経験9年
評価調査員	在宅介護経験11年
自主評価結果を見る	(まだリンク先はありません)
評価項目の内容を見る	
事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)	

外部評価の結果

講評
全体を通して(特に良いと思われる点など)
訪問者の私が、「うちの近くに入え温泉があるよ。桃畑もあるから春になったらおいでよ」と言ったら「わぁ、春と言わず明日でも行きたいよ」「ドライブして何處でも行ったらええがな。利用者与管理者の話は盛り上がる。管理者と言う言葉は、ここではどうにも似合わない。3人のおばあちゃんらの孫娘だ。コタツにずり込んで、昨年暮れに皆で行った一泊旅行の写真を捲りながら話しながら花が咲いていると思っていたら さんは、牡丹雪の降りしき中、「ちょっと行ってくる」と言ってお出かけ。孫娘は大急ぎでコートを着せて、お供となる。どこを見廻しても親類か友達のお家にきている気分だ。ホームの住人が3人で、お隣の部屋のデイの人が5人。住人も、お世話する人も、実習のヘルパーさんもエプロンの人なので、訪問者の私達はさっぱり見分けがつかない。
私自身、親子4人と年寄り3人の暮らしを長年してきたせいか、この空気は私の体の中にじわっと染み込んでくる。「私が死んだら、この庭に骨を埋めてえな」と言う さんの言葉は孫娘達への何よりの勳章だろう。
認知症の人と共に暮らす家族を少しでも支援して、出来る限り「我が家での暮らし」を続けてもらいたい。どうしてもこの願いが叶わなくなった時、日中馴染んできたこの家にお泊りして頂く。こういった本人や家族の立場から言って一番理想的な支援がこの「ぶどうの家」である。法律が変わっても、この初心が貫かれ、皆気持ち良く「今のここでの暮らし」が続けられることを願ってやまない。
特に改善の余地があると思われる点
次のような提案をした
グループホームを訪問し続けてきて、職員がどんなに献身的に良いケアを目指している、どんなに素晴らしい施設で暮らしている、どうしても心にひっかりを感じる事がある。その一つは「家族との関係」であり、もう一つは「認知症の人の集まりだ」という思いがして仕方がない。この2つの観点から見ると、この家にはひっかかるものが見当たらない。
今後住人の人数が増えても、職員が頑張過ぎないで、家族や近隣の人、ボランティア等の応援団にしっかり活躍してもらい、「認知症の人も居たんだ!」という賑やかで面白いお家にして下さい。

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
	G.Hぶどうの家の理念として「四季折々を感じられ、一人ひとりの希望が自由に言え、願いが叶う、愛のあるG.H」が文字通り実現していて、私としては満足である。特に さんの「生まれ育った実家を訪ね、長年会っていない兄弟にも会いたい」と言う願いを皆の力で実現させたという話には涙が出そうになった。雲を掴むような話だったのに実現できたのは、観音様や御大師様のお陰か、それに加えて、職員の「なんとしてでも、さんの願いを叶えたい」と願う執念かと思		

生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
	百二歳の母と暮らす我が家は、あちこちに段差がある。このお家も民家の改装なので、我が家と同じだ。うちの年寄りがそうであるように、ここの住人達も一見危なそうな所では注意してゆっくり歩いたり、何かに掴まったりしている。新しい施設のようにゆったりと広い場では得られない、いわば「今まで自分が暮らしていたような寛ぎ感がここには溢れている。		
	おこたが「しゃべり場」となっていて、特に夜はその人の本音を聞ける事もあり、「この仕事をしていて良かった」という幸せそうな人の顔は、私の心まで明るくしてくれる。不幸な年寄りの話しを見聞きする事の多い昨今、こんな嬉しい日もある。		

ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人のできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にされた整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物物の支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
	先程から延々と拭き掃除に勤む さん。こ一時間も一生懸命にして下さるので助かると聞く。食器の洗い物、朝食の準備、洗濯物干しや片付け、花の水遣り等、その人がやりたいという意欲を大切にしているから主婦があちこちにいる感じだ。「この人は利用者？職員？」と見紛う程だ。		
	炬燵の守り係となっている さんは、「今まで百姓を一生懸命してきたから、今はもう遊びたいんじゃ、いろんな所へ行ってみたい」と言う。「今日は雪じゃから動いてないよ、水遣りも出来んしなあ。お布団の用意してきたら、の誘いかけに夜の準備をしてきたかと思たら、もう炬燵にずり込んで。もう早やもくり込んで」「えへへ…」と小突き合う様は子猫のじゃれ合い。		
	一人ひとりの力や経験、思いやプライバシーの尊重の底に熱いものが流れている。		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。		
	とても良く気が配りが出来る さんに対して、「生来、そんな性格なんだろうか。それとも、ここでお世話になっているからと気兼ねしているんだろうか？」と職員は悩み、心の奥深い所まで入ろうとしている。「実家に行ってみよう」という さんの願いを所番地だけをたよりに探し当てる。本人の思いを表に引きずり出して、何が菜でも叶えてあげようとしている。「今日は何処へ行きたい？海？山？」「そりゃ、海にきまるとるがな」 さんの今の「やりたい事、行きたい所」を直ぐに実現させる。		
	「まだ、人数が少ないから出来るんです」と管理者は言うが、お互いの心が通じ、心を開いてくれる瞬間を喜び合い、双方が暖かくなることに生きがいを感じている。「サービスの質の向上に向け努力している」といった次元の話ではない。		
	ここで暮らすをお互いに楽しんでいるかと思える程だ。		